

家康の関東入国と上野国

～文書館収蔵中近世文書の世界～

展示期間 令和5年8月5日(土)～11月26日(日)

2023年のNHK大河ドラマでは徳川家康が主人公として取り上げられています。これを機に全国各地で徳川家康や徳川家に関する展示会・イベントが行われ関心が高まっています。上野国(群馬県)も、天正18年(1590年)の家康の関東入国に伴い、井伊直政、榊原康政、平岩親吉などの重臣が各地に配置されました。今後大河ドラマの進展によって、家康と上野国の関わりへの関心が一層高まることが予想されます。今回の展示では、当館が収蔵する徳川家康関連の史料を紹介するとともに、戦国時代から江戸時代初期の上野国(群馬県)の姿を振り返ります。



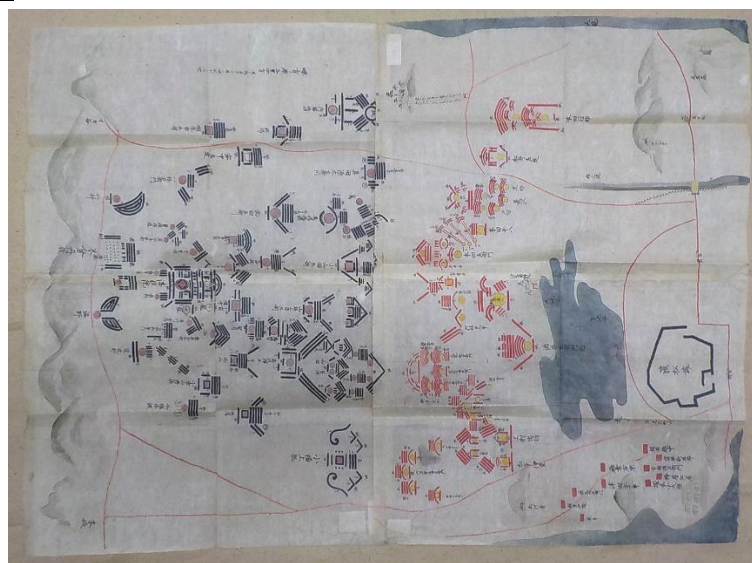
東照大権現像(徳川家康神像)

□ [新田郡世良田村東照宮勅額
(東照宮勅額掲揚ノ儀出願一件)]
明治17年(1884年)より

1 語り継がれる家康

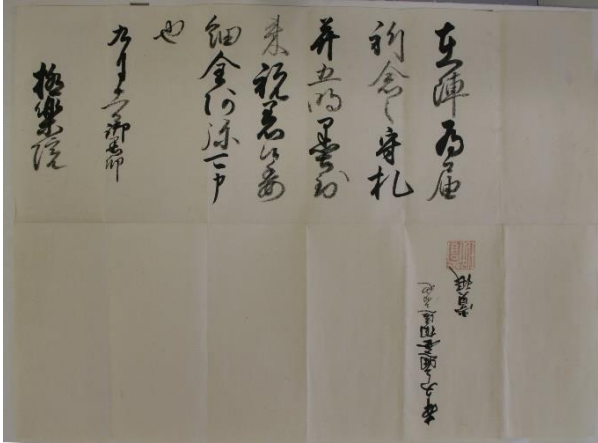
5 [味方ヶ原三里四方(法性院布陣図)] 年不詳(近世カ)

6 [布陣図(浜松城、家康公布陣図)] 年不詳(近世カ)



元龜3年(1572年)12月、遠江国三方原で行われた武田信玄と徳川家康との戦いにおける布陣図です。二つの布陣図はもともと一つの図であったと思われる(パネルでは両図をつなげてあります)。法性院(武田信玄)の陣立てが青、家康の陣立てが赤で描かれています。図の右下には織田信長が家康への援軍として派遣した佐久間右衛門(信盛)の名前も確認できます。

11 〔徳川家康黒印状写カ〕 (慶長5年(1600年)9月11日)

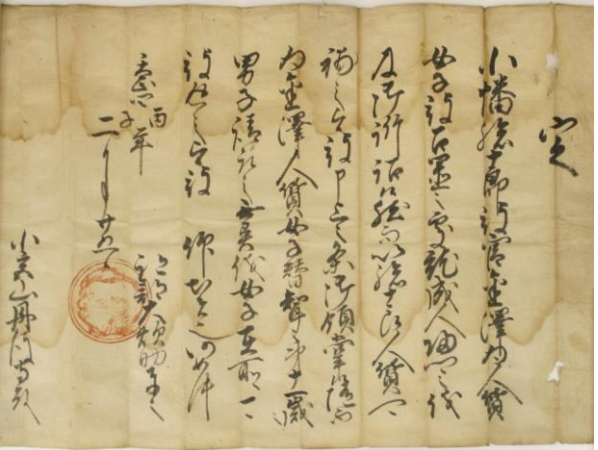


関ヶ原の戦いに際し、本山派修験(聖護院を本山とする修験道)の極楽院(現高崎市箕郷町和田山)が、戦勝を祈願した祈祷札と墨を家康に届けたことに対しての返礼状の写と思われます。多くの戦国大名は合戦に際し、領国の寺院に対して戦勝祈願を課していましたが、家康の領国となった上野国においても例外ではなかったようです。また、取次ぎを担った「全阿弥(ぜんあみ)」は本名を内田正次といい、家康の初期の宗教行政に於いて重要な役割を果たした人物です。

(P0603 浦野安孫家文書 No.15)

2 戦国動乱の上野国

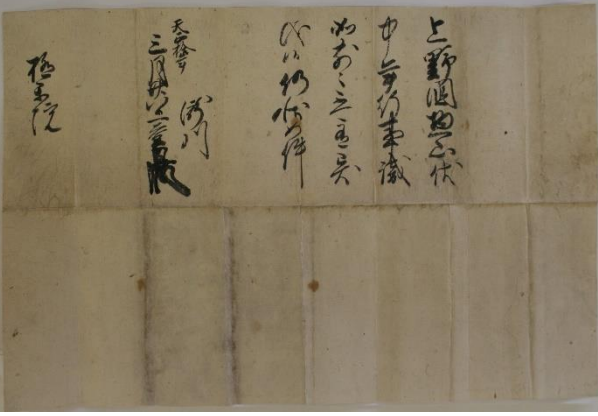
17 〔武田家定書〕 天正4年(1576年)2月25日



武田勝頼が、長根(現高崎市吉井町長根)小幡氏家臣の人質交換を命じた文書です。小幡孫十郎の家臣金澤氏から人質に出した女子が成人したので帰郷させてほしいとの訴えがあったため、勝頼は孫十郎が代わりの人質を出して補うことでした。差出人は勝頼の側近として台頭した跡部大炊助勝資ですが、文言や朱印から勝頼の命令であったことがわかります。受取人の小宮山丹後守虎高は、武田家家臣として上野国に在番し、上野国の在地領主に指示を出す立場にあった人物です。

(P09805 青野一枝家文書 No.1)

19 〔滝川一益判物〕 天正10年(1582年)3月28日

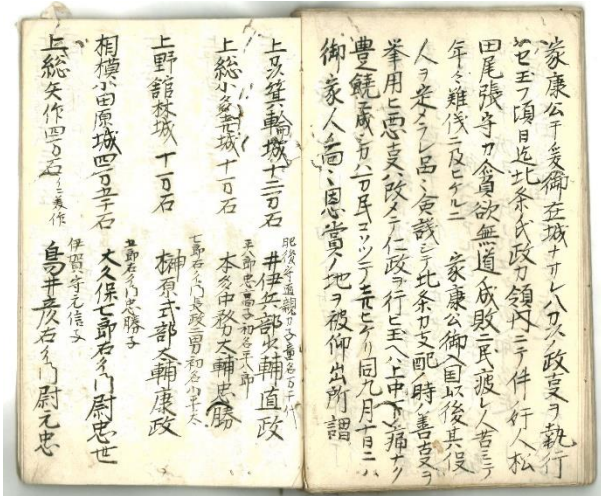


織田家家臣滝川一益が極楽院に対し、上野国における山伏(修験者)の年行事職(総支配権)を安堵した文書です。天正10年(1582年)3月、甲斐国天目山の戦いで武田勝頼は敗北し、武田家は滅亡しました。旧武田領国は織田信長の支配下となり、上野国には重臣の滝川一益が入国しました。この文書からは一益が入国直後より精力的に領国支配を行っていた様子が窺われます。しかし、一益による上野国支配は6月に発生した本能寺の変で一変することになりました。

(P0603 浦野安孫家文書 No.2)

3 統一される上野国

24 [参河後風土記 卷十五、卷二十三 *写] 明和4年(1767年)4月・7月

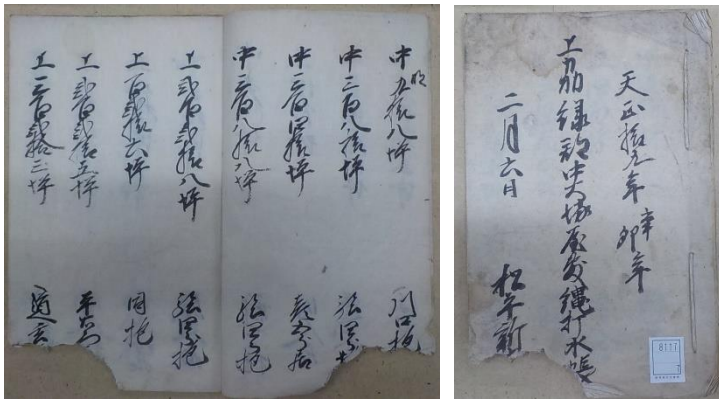


(P0201 萩原信之家文書 No.480-1)

徳川氏が祖と称した清和源氏から徳川家康將軍就任までの700余年間を年代順に記述した書物です。著者は不明です。家康の関東入国に伴い、9月10日に関東各地に配置された大名が列記されています。上野国には、徳川四天王のうち井伊直政が箕輪に、榊原康政が館林に入城したほか、厩橋の平岩親吉など三河時代以来の重臣が多数配置されたことがわかります。

25 [上州緑埜郡中大塚屋敷縄打水帳 松平新 [] *写]

天正19年(1591年)2月6日



(P8117 小林小五郎家文書 No.7)

徳川家康の関東入国後まもなくの時期に作成されたと思われる水帳(検地帳)の写です。天正19年(1591年)の中大塚村(現藤岡市中大塚)は藤岡城主松平新六郎(康真)の領分であったため、康真の主導によって検地が実施されたと考えられます。表題にもある通り屋敷地の検地帳ですが、上・中の等級が記され、面積は坪で示されています。領主にとって田畑屋敷地の検地は、支配領域の生産量を把握し、効率よく年貢(税)を徴収するための最優先課題でした。

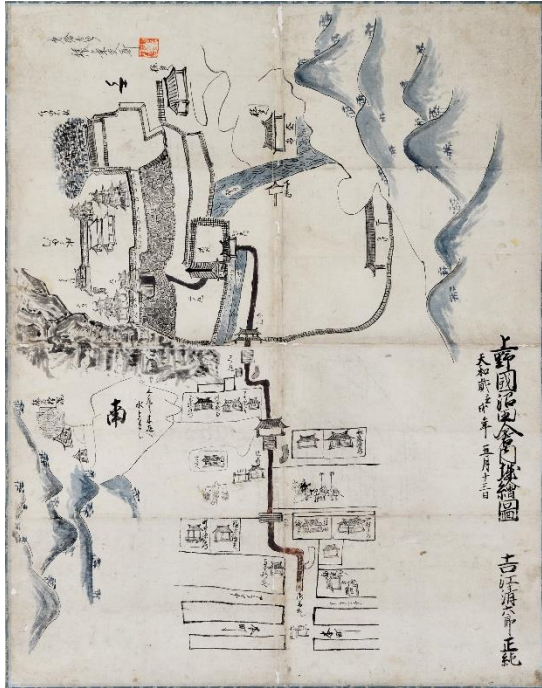
29 [禁制 *写] 慶長17年(1612年)4月12日



(P8214 飯塚馨家文書 No.2464)

この文書は、幕府領三波川郷(現藤岡市三波川)の支配代官であった成瀬権左衛門が、三波川郷宛てに出した禁制です。三波川郷内にあった東御荷鉾山は、山札を持った鬼石郷の村民が草木の刈り取りを許された入会地でした。しかし、東御荷鉾山の「御公方御用木」を切ることで、三波川郷の百姓屋敷付の林で草や薪を切ること、札を持っているという理由で限度を超えて草木を取ることは、この禁制で禁じられました。この禁制は写ですが、本来は木札に書かれ掲示されたと考えられます。

32 [上野国沼田倉内城絵図] 天和2年(1682年)5月13日

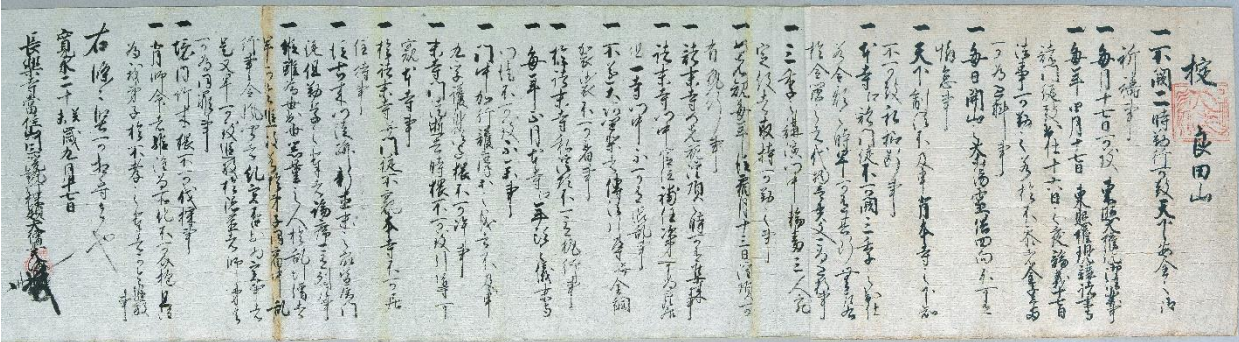


沼田城は天文元年(1532)年に沼田氏12代沼田頭泰によって築城された倉内城が前身の城郭です。その後、天正8年(1580年)武田家家臣の真田昌幸が入城し、天正18年(1590年)には嫡子信幸(信之)が豊臣秀吉より沼田領2万7千石を賜り、初代沼田城主となります。真田氏はその後5代信利の代まで城主を務めました。天和元年(1681年)、江戸両国橋用材伐出し遅延と失政の名目で改易となり、翌年城はすべて破却されました。この絵図は城の破却に伴う記録として描かれたものと考えられます。

(P8504 新治村猿ヶ京区有文書 No.233)

4 統制される宗教

37 [長楽寺掟書] 寛永20年(1643年)9月17日



(H84-15-1 近世 長楽寺文書 ①/長0) 画像提供：太田市教育委員会

この文書は、徳川家康の側近として活躍した天海が定めた寺内法度です。天海は、慶長17年(1612年)に家康より徳川氏ゆかりの寺である長楽寺の住持(住職)に任命されます。掟書は20箇条からなり、家康の月命日の法要を行うこと、末寺は季節の挨拶を欠かさぬこと、末寺は門徒の葬儀について本寺に相談することなく行っはならないこと、師僧の命に背く弟子は寺から追放すること等の厳しい内容が記されています。

〒371-0801 群馬県前橋市文京町 3-27-26
 TEL:027-221-2346 Fax:027-221-1628
 E-mail : monjyo@pref.gunma.lg.jp

令和5年度 テーマ展示1「家康の関東入国と上野国～文書館収蔵中近世文書の世界～」

期間：令和5年8月5日（土）～11月26日（日）

No.	史料表題(古文書表題・公文書件名)・参考資料表題	和暦年	西暦年	月日	古文書文書群名・ 公文書簿冊名等	請求番号・ 受入記号	文書 番号	形態	展示 期間	展示 形態
1 語り継がれる家康										
(1) 神になった家康										
1	新田郡世良田村東照宮勅額（東照宮勅額掲揚ノ儀出願一件）	明治17年	1884		群馬県行政文書	A0184A00	164	1冊	全	パネル
2	徳川家康略年表								全	パネル
3	絵図（日光東照宮二百回忌法会関係力） *縦29.0cm×横41.0cm	年不詳			加藤史夫家文書	P1706	819	絵図1舗	全	パネル
(2) 戦う家康										
4	三河物語・第二（大久保家代々相伝仕者也） *写	元和8年	1622	4月	角田光枝家文書	P9004	2390	竪1冊	全	複製
5	味方ヶ原三里四方（法性院布陣図） *彩色、縦36.0cm×横53.5cm	年不詳			加藤史夫家文書	P1706	370	絵図1舗	全	パネル
6	布陣図（浜松城、家康公布陣図） *彩色、縦37.0cm×横53.5cm	年不詳			加藤史夫家文書	P1706	461	絵図1舗	全	パネル
7	甲陽軍鑑 十二 *写	天正4年	1576	正月	小林小五郎家文書	P8117	600	竪1冊	前	複製
8	甲陽軍鑑 十九 *写	天正5年	1577	12月	小林小五郎家文書	P8117	607	竪2冊	後	複製
9	土岐家中興之祖定政公御伝記附勝軍地藏尊由緒書 *写本、土岐家所蔵写	正徳4年	1714	3月	加藤史夫家文書	P1706	792	竪1冊	全	複製
10	関ヶ原合戦東西両軍配置図 *縦54cm×横76cm	年不詳			上岡高行氏収集文書	P08212	200	1舗	全	パネル
11	徳川家康黒印状写カ（関ヶ原在陣の節、祈念の守札・五明墨到来）	（慶長5年）	1600	9月11日	浦野安孫家文書	P0603	15	折1通	全	複製
12	大坂冬御陣図 *彩色、81.2cm×78.6cm	年不詳			石井忠樹家文書	P01102	11-1	1舗	前	パネル
13	大坂夏御陣図 *彩色、92.0cm×104.5cm	年不詳			石井忠樹家文書	P01102	11-2	1舗	後	パネル
2 戦国動乱の上野国										
(1) 三つ巴の上野国										
14	永禄9年（1566）頃の上野国勢力図								全	パネル
15	北条家朱印状	天文21年	1552	3月20日	飯塚馨家文書	P8214	12279	竪1通	全	パネル
16	知行宛行状	元亀2年	1571	3月2日	永井明家文書	P0007	5	折1通	全	パネル
17	武田家定書（人質女子成人に付帰郷、11才男子と交代に付）	天正4年	1576	2月25日	青野一枝家文書	P09805	1	1通	全	パネル
(2) 天正壬午の乱と上野国										
18	天正10年（1582）頃の上野国勢力図								全	パネル
19	滝川一益判物（上野国惣山伏年行事職仰付）	天正10年	1582	3月28日	浦野安孫家文書	P0603	2	折1通	全	パネル
20	北条氏邦判物（寺領安堵）	天正10年	1582	7月11日	浦野安孫家文書	P0603	3	折1通	全	パネル
21	八幡山番帳 *写	天正16年	1588	卯月26日	富澤久幸家文書	P0905	631	切継1通	全	パネル

